

イラク*

国際動向・戦略分析グループ 研究員 佐藤 周作

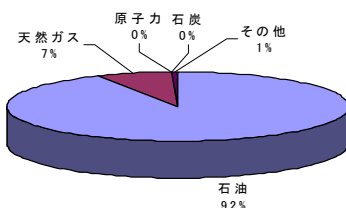
1. サマリー

1. エネルギー事情

イラクは、石油・天然ガス資源を豊富に保有している資源純輸出国であり、2006 年末における石油確認埋蔵量は 1,150 億バレル（世界に占めるシェアは 9.5%）で、サウジアラビア、イランに次いで世界第 3 位となっている。また、天然ガス確認埋蔵量は 3.17 兆立米（世界に占めるシェアは 1.7%）で、世界第 10 位となっている。

- (1) 一次エネルギー供給量：3,076 万石油換算トン（2005 年）
- (2) 一人当たり一次エネルギー供給量：1.07 石油換算トン（2005 年）（日本の約 26%）
- (3) エネルギー自給率：312%（2005 年）
- (4) エネルギー起源 CO2 排出量：8,460 万 CO2 トン（2005 年）
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO2 排出量：2.94CO2 トン（2005 年）
- (6) エネルギー資源別可採年数：原油、天然ガス共に 100 年以上

一次エネルギー総供給構成（2005 年）



（出所）IEA, 「Energy Balances of Non-OECD Countries 2004-2005」2007 Edition.

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

2005 年 4 月 28 日、連合国暫定当局、暫定政府に続く移行政府（ジャアファリー首相）が正式に発足した。移行政府の「エネルギー評議会」が石油・ガス・水・電力に関する意思決定を行い、石油省が政策の執行を行う。また、石油省内にエネルギー上流部門とイラク国営石油販売公社(SOMO)を監督する 2 つの委員会が設置されている。2006 年 5 月には、移行政府に代わる本格政府が発足し、石油相には、フセイン・シャハリスタニ氏が選出された。

(2) 基本政策

イラクの石油政策の優先課題は石油生産及び収入の回復を加速させることである。2005 年 5 月、移行政府のウルーム石油相（当時）は、当面の石油省の優先課題としてパイプラインなど石油関連設備への破壊工作防止、石油省内の汚職防止、石油生産量・輸出量の引き上げ、燃料等石油製品の供給拡大、イラク国営石油会社の再構築等を挙げた。

(3) 最近の動向

*平成 19 年度に経済産業省資源エネルギー庁より受託して実施した受託研究の一部である。この度、経済産業省の許可を得て公表できることとなった。経済産業省関係者のご理解・ご協力に謝意を表すものである。

2007 年 2 月、イラク議会において、炭化水素法の審議が開始された。同法を元に、外資導入による製油所増強により、同国内の石油製品供給不足の解消につなげたいとしている（審議の進捗状況については後述する）。また、石油省では、石油生産量について 2005 年実績の 191 万 b/d から、2010 年までに 430 万 b/d、2012 年までに 600 万 b/d に引き上げるとしている。

3. 日本とエネルギー分野における関係

イラクから日本への原油輸入は 2006 年で 242.7 万 kl と、原油輸入全体の 1.0% である。

日本の石油資源開発（株）は 2005 年 4 月 27 日、イラク石油省とイラク国内 4 ヶ所での油田開発協力の覚書を調印したことを発表した。また、アラビア石油は同年 6 月 15 日、同じくイラク石油省とイラク南部のツバー油田の開発やパイプライン施設に関する技術協力及び日本でのエンジニア研修の覚書を締結したと発表した。

2005 年 11 月 24 日、麻生外務大臣とズィバーリー・イラク外務大臣の間で、パリクラブ合意を踏まえた債務救済（約 76 億ドルの対象債務を 3 段階に分けて合計 80%削減）に係る合意に署名した。

2006 年 8 月 3 日、麻生外務大臣はマーリキー・イラク首相との会談で、最大 35 億ドルの円借款による経済活動の基盤整備を中心とした支援等を通じ、イラク復興を積極的に支援していくと表明した。

2. 主要エネルギー指標 (2005 年)

(1)	一次エネルギー供給量	30.76	石油換算百万トン
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	1.14	石油換算トン/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	1.61	石油換算トン/千ドル
(4)	エネルギー自給率	312	%
(5)	エネルギー起源CO ₂ 排出量	84.60	二酸化炭素百万トン
(6)	一人当たりエネルギー起源CO ₂ 排出量	2.94	二酸化炭素トン/人
(7)	エネルギー源別構成率		
	石炭	0	%
	石油	92.0	%
	ガス	7.0	%
	原子力	0	%
	水力 再生可能エネルギー等	0.1 0.5	% %
(8)	エネルギーの輸入依存度	0	%
(9)	石油の輸入依存度	0	%
(10)	輸入原油の中東依存度	0	%
(11)	原油輸入先	第 1 位	—
		第 2 位	—
		第 3 位	—

(出所) : (1)~(4) 及び(7)~(9) は IEA 「Energy Balances of Non-OECD Countries 2004-2005」 2007 Edition

(5)~(6) は IEA 「CO₂ Emissions from Fuel Combustion 1971-2005」 2007 Edition

(10)~(11) は Blackwell 「World Oil Trade : An Annual Analysis and Statistical Review of International Oil Movements」, September 2007.